

地域課題① 各世代が参加しやすい活動に再構築

★具体的取組の例

- 日常的に近隣同士が気軽に会話できる雰囲気や場づくり
- 各世代が単位自治組織活動に参加しやすい雰囲気や場づくり
- 子ども会や中高生などの若い世代、あるいは高齢者団体等が、それぞれの年代だけでなく幅広い年代を対象とする事業を企画・運営し、交流を広げる
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページや SNS を併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	24	57%
取り組まなかった	18	43%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・保全会と連携して花の植栽を行い、老若男女の参加ができて好評だった。
- ・子ども会（育成会）事業で隣接町内会と合同で活動した。

【31～100 世帯】

- ・各世代が活動に参加できるように開催日時を検討し、若い世代の参加が増えた。
- ・全戸の協力を得て町内会の草刈り、防雪柵の設置などを行い、町内の環境整備をした。
- ・地区全体でのお祭り広場、ウォーキング大会を開催し、年々参加者が増えている。
- ・町内会主催のグラウンドゴルフ&ビアパーティーを開催し、盛り上がった。

【101～300 世帯】

- ・子どもから高齢者まで、幅広い年代層が参加可能な軽スポーツ大会（グラウンドゴルフ・新年会の輪投げやゲーム大会など）を企画・運営し、交流の輪を広げる場を設けたところ、保護者と町内会との繋がりを作ることができた。
- ・老人クラブ、消防団、育成会などと合同で夏祭りを開催し、盛り上がった。

地域課題② 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 隣組や班などの統合再編など組織の見直しや、役員構成の見直し
- 現役世代が参加できる役員体制と共通認識づくり
- 将来を見据えた会費のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	43%
取り組まなかった	24	57%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・仕事とのバランスを考慮し、極力「作業」は住民と触れ合う時間に費やし、「企画・進め方」は役員間で考え、各々の事業担当者とのコミュニケーションを図りながら進めることとした。負担削減を図るだけでなく、次の事業に繋がる活動となった。
- ・公園清掃や草刈り作業などを機械所有者に委託した。作業時間が短縮され、より細かな箇所まで清

掃を行うことができた。

【31～100 世帯】

- ・ 自主防災活動による町内会の安全確保に取り組んだ。
- ・ 公民館及び付帯設備の将来的な改修や修繕を計画的に行うために継続的に積み立てを実施している。町内会予算で賄える場合は年ごとに実施し、長期的な計画（予算）が必要な場合は、次の役員への申し送り事項としている。
- ・ 子ども会役員も含め、各種役員・委員による合同会議を年1回（毎年2月）開催し、それぞれの立場から問題提起していただいている。年次総会にて取組み内容の報告を行い、町内会活動への参加意識の向上が図れた。
- ・ 将来を見据えた予算配分や会費のあり方を検討し、持続可能な予算のあり方を意識した。
- ・ 町内会費を見直し、負担の軽減に繋がった。
- ・ 町内会体育部役員の人数を半分にし、体育部役員と町内会役員で協力することになった。

【101～300 世帯】

- ・ 町内会の各事業について評価し、事業内容及び組織体制の見直しを行った。祭りの事業運営を若手に引き継いでもらえるようにした。
- ・ 令和4年度に作成した世帯名簿（家族カード）を防災訓練に活用したところ、世帯人数の変化が確認されたため、本年度に新しい世帯名簿を作成、提出してもらった。

地域課題③ 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 広域コミュニティ組織等と連携しての生涯学習事業の実施
- 多様な媒体を活用した事業周知、年齢層やライフステージを意識したPR活動

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	29%
取り組まなかった	30	71%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【31～100 世帯】

- ・ 軽スポーツ教室を広域コミュニティ組織と共催することで、単独では難しい事業でも開催でき、興味が深まった。

地域課題④ 広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり

★具体的取組の例

- 自主防災計画の見直しなど自主防災組織の機能点検の実施
- 定期的な防災訓練の実施
- 緊急時や災害時に備えた住民情報の収集とその適正管理
- 地域における防犯意識を高めるための啓発活動の実施
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	23	55%
取り組まなかった	19	45%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・藤島地区の防災訓練に参加したことで、災害時の避難方法を確認できた。年々、防災意識の向上が見られる。
- ・ポンプ小屋を解体した。発災時に使用しやすいように消火栓ホース収納箱を消火栓付近に設置した。
- ・防災組織の役員について、それぞれの適性に応じた役割とした。常会にて説明を行い、有事の際の協力を依頼した。春先に消防団、保健衛生推進員との連携により各戸への火災などの注意喚起を行った。

【31～100 世帯】

- ・地区の防災訓練に参加し防災意識の再確認ができた。
- ・防災研修を行い自主防災組織の再構築に繋がった。
- ・町内会役員及び各団体長、並びに町内会全戸の名簿を一覧にし、全戸配布した。町内会役員、各団体長への連絡体制が整い、緊急時の連絡網について共有ができた。

【101～300 世帯】

- ・災害時避難行動要支援者の個別の避難計画を作成した。自主防災計画・組織体制について町内会役員への周知を図り協力を要請した。
- ・災害時避難行動要支援者の個別の避難計画を作成し、要支援者の支援体制について整備した。
- ・空き家管理について、所有者情報の把握、市との連携を図った。
- ・地域活動センターと連携した防災訓練を実施した。

地域課題⑤ 地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築

★具体的取組の例

- 高齢者単独世帯への声掛けなど、普段からのコミュニケーション構築
- 高齢者の方々の知見と経験をいかす地域福祉活動
- 有償ボランティアの検討など、持続可能な地域福祉の構築
- 単位自治組織と広域コミュニティ組織との機能・役割分担会議の開催
- 課題や将来像を共有する場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	43%
取り組まなかった	24	57%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・役員を中心に高齢者世帯へ積極的な戸別訪問と声掛けなどを行い、家族構成などの状況把握を行った。

【31～100 世帯】

- ・単身高齢世帯の町内会費半額を継続して実施し、今後増える高齢者世帯への負担軽減を継続して行った。
- ・除雪協力隊を編成し、高齢者宅で除雪車が運んだ雪で見通しが悪くなった箇所や消火栓・防火水槽の除雪に協力いただいた。
- ・市民福祉課と共催し、町内会公民館でロコモ予防の体操を実施した。年配者が多く参加し、健康への関心の深さを実感した。
- ・福祉関係の研修で地域の要支援者の情報を共有することができた。
- ・会員把握のため、住民台帳の定期的な整備を実施した。

【101～300 世帯】

- ・除雪・公園清掃などのボランティア活動を推進し、人材を育成した。
- ・歩道、緑道の除雪は、町内の除雪協力体制により実施した。今後は、高齢者世帯への除雪ボランティアの確立に努めたい。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもから地域活動に関わることができるように、開催日や運営形態等の工夫
- 伝統行事や伝統芸能への理解促進と継承活動の支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	14	33%
取り組まなかった	28	67%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・全戸による集落内、通学路（田んぼ用水回り）を中心にごみ拾い活動、泥上げ作業を実施した。また、花植え運動、公民館内外、公園周辺の美化活動を積極的に行った。

【31～100 世帯】

- ・伝統芸能や夏祭りを開催し、家族や友人との繋がりを深めた。
- ・土地改良区のエコフィールド事業により、田植えや生物調査・稲刈り体験で田園地帯の地域の特性を子どもたちが学び、環境への理解を深めた。
- ・子ども育成会が主体となり、町内会及びみどりネットが参画し、地域道路のごみ拾いと町内会全戸へ花を移植したプランターを配布した。併せて、子どもたちに共用部分の水やりの役割を持たせた。子どもから地域事業に参画することで、地域での役割や責任などの心の育成に繋がった。
- ・保全会と連携し、水路浚渫、道路美化活動を実施した。また、老人クラブ、子ども会での花の植栽活動へ助成を実施した。
- ・藤島地区自治振興会主催のクリーン作戦へ役員や子ども会で参加し、きれいな町内会への意識付けができた。

その他／ 地域で課題になっていることなど**【30 世帯以下】**

- ・小規模の町内会は少子高齢化のため、人員不足である。将来的な町内会運営の継続が不安。
- ・人口減少により単一町内会で成り立たない状況が見えている。
- ・町内会費の未納の方への対処の仕方が課題となっている。
- ・防雪棚の組立てや撤収、除雪（高齢者宅）の継続が難しい。
- ・現在、小学生がおらず、子ども会と市民運動会への参加が休止となっている。地域活性化に結びつく事業をどのように行っていくか検討が必要。
- ・農業の後継者がいない。
- ・公園の遊具を老朽化により撤去するも、予算の都合上更新できない。
- ・年々高齢化が顕著に進行しており、町内会全体の活気がなくなっている。会員の高齢化と単身高齢世帯が増加している。また、空き家も増加しており、敷地の雑草、立木の放置などの環境悪化が進んでいる。

【31～100 世帯】

- ・若い世代の市内または中心部への移住が増えている。将来的には空き家問題が顕著になり、町内会そのものの存続が危うい（人口減少）。
- ・獅子踊り保存会の後継者不足している。
- ・男女を問わず未婚者が増えてきた。
- ・空き家が増加し、管理不全による樹木や雑草の苦情がある。また、狸など野生動物の住処になっている。
- ・町内会及び各団体の役員のなり手が少なく高齢化している。

【101～300 世帯】

- ・会員の高齢化により会員数の減少、役員の高齢化が進んでいる。また、単身高齢世帯や高齢者のみの世帯が増加している。さらに、年々空き家件数が増加している。
- ・行政などから依頼のある委員（例：民生児童委員、保健衛生推進員など）の人選が困難である。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など**【30 世帯以下】**

- ・神社、拝殿の老朽化による移転整備、公民館の外壁部分の修繕。
- ・町内会住民を対象とした将来の展望に明るい兆しが見えるような、また活気づけるような事業（先進事例、注目度の高い地域訪問など）に取り組みたい。

【101～300 世帯】

- ・藤島駅周辺市道の歩道に花を植栽する環境整備事業を、緑化事業交付金を活用し、役員とボランティアを募集して実施している。継続して環境整備事業を行っていきたい。
- ・夏祭りの運営に小中学生が参加できるようにし、思い出作りと郷土愛を育むようにしたい。
- ・子どもたちに思い出作りができる事業として、例えば餅つきを検討したい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など**【30 世帯以下】**

- ・積極的な「世話やき人」組織の立ち上げなど婚活の取組み。
- ・10年後、20年後の町内会の展望が見えない。
- ・急速な人口減少に現在対策はないが、町内会と地域の課題をそれぞれ共有したうえで事業を展開してほしい。

【31～100世帯】

- ・昨年の水害では人的被害はなかったが、車の水没により5台が廃車になった。早い段階から自家用車での避難を進めることといつでも安否の確認が取れるようにしておくことは大切だと思う。
- ・子どもの減少と高齢者の増加に悩んでいる。行事への参加者は減少してきており、対応策を話し合っているが良い案がない。

【101～300世帯】

- ・65歳以上の世帯が増えており、10年後・20年後には世帯数が半減することが予想されている。現在の町内会事業が縮小せざるを得ない状況になり、町内会に活気がなくなることが心配される。市の研修で高校生の役員を登用したりする自治会の事例紹介があった。夏祭りのスタッフとして子ども会の売店限定で小学生を参加させたらどうかという話があった。有効な手立てを他にも紹介してもらえたらと思う。
- ・町内会で除雪ボランティアを募集しているが、除雪ボランティアをしてくれる方が固定化しているため、年々高齢化している。除雪車も玄関先に雪の塊を置いていかないように工夫をしていくことが必要になると感じている。

地域課題① 地区自治振興会を核とした活動の推進

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の維持と活動内容のPR
- 各種団体・組織の統合・再編の検討
- 地域コミュニティの実態を把握するための調査の継続実施
- 住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- アドバイザー職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・広域コミュニティ組織の活動内容のPRを行った。（藤島）
- ・各種団体組織による情報交換会を開催し、連携に向けた検討を行った。（藤島）
- ・全戸配布の「活センだより」を定期的に発行した。（八栄島）
- ・「花を愛でる会」が館内外の環境整備（生け花、花の植栽）を行い、生け花などで常に来館者を気持ちよく迎えることができた。（八栄島）
- ・長沼温泉ぽっぽの湯運営協議会の一員として、ぽっぽの湯で健康づくり及び集客できる事業を開催した。（長沼）
- ・昨年完成した「渡前地区地域ビジョン」を基本に、地区・町内会の状況を考慮し、事業の見直しを進め、地域のコミュニティが維持できるよう新たな繋がりを検討した。（渡前）

地域課題② 持続可能な運営方法の確立

★具体的取組の例

- 会費のあり方の検討
- 住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの導入
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・住民自治組織の存在意義や役割、活動などを広報紙で発信した。（藤島）
- ・町内会役員との会議を設定し、毎年会費などの見直しを行っている。また、事業を行う際は役割を分担して運営した。様々な意見を取り上げ事業展開している。（八栄島）
- ・実施事業については実行委員会を設け、内容の検討を行っている。（八栄島）
- ・地区内の各種負担金の見直しを図り、適正な額を提示し、各町内会の負担軽減に努めた。（長沼）
- ・毎月、事業案内や開催した事業の様子を掲載した「地域活動センターだより」を全世帯に配布し、事業への参加意欲を促した。（長沼）
- ・町内会連絡協議会、青少年育成協議会、生涯学習推進員などと連携し、様々な事業の検討や新規事

業の立案について協議し実施している。(渡前)

地域課題③ 地区内外の団体との連携強化

★具体的取組の例

- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による意見交換会の開催、連携に向けた検討
- 人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織若手を対象とした研修会、PTAと連携しての地域人材育成研修会、コミセン職員研修会等）
- 町内会長連絡協議会等地域全域で構成される組織と広域コミュニティ組織との連絡調整会議の開催

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・各種団体組織による意見交換会の開催、連携に向けた検討を行った。(藤島)
- ・町内会役員、民生児童委員との定期的な会議を設け、連携強化を図っている。(八栄島)
- ・地域自治振興会連絡協議会及び生涯学習関係機関との定期的な会合の場で、意見交換を行った。(長沼)
- ・当地区で活動している趣味のサークル（料理、芸術など）から協力いただき、それぞれの特徴を活かし事業の内容を充実させている。(渡前)

地域課題④ 福祉と防災で新たな役割を確立

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担の確立
- 単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 関係団体等との協働による防災訓練の実施
- 高齢者の生活ニーズを踏まえ、持続可能な課題解決の手段として、コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 中学生・高校生の防災意識の高揚（応急処置講習会、防災訓練への参画）
- 災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・防災訓練に多くの住民が参加し、住民の防災意識を高めることができた。(藤島)
- ・各種ボランティア事業を行うことで、地域の環境美化や生活弱者支援に繋がっている。(藤島)
- ・市の災害時地区指定職員と災害時における対応の仕方について共通理解を図っている。また救急法講習会を開催し、住民の防災意識の高揚を図っている。(八栄島)
- ・ふじしま包括支援センターと連携し「長沼ゆったりカフェ(認知症カフェ)」を、ぼっぼの湯で3回開催した。認知症について学んだり、気軽に相談できる居場所を提供した。(長沼)
- ・渡前地域自治振興会と各町内会が連携し、総合防災訓練の実施や災害時に避難者を受け入れるため

の備品や食料品の点検を継続して行っている。(渡前)

地域課題⑤ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- この地域でなければ経験できない伝統芸能、食生活、スポーツなどに、子どもたちから触れ合う事業を実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動として小学生夏休み宿題支援室、書初め教室、中学生対象学習支援室等を開催した。地元の教員OBを講師として依頼し、子育て世代の保護者をサポートすることができた。(藤島)
- ・小学生を対象とした青少年育成事業「わらしっこ楽園」事業を年6回実施した。ボランティア活動や様々な体験を通し、多世代との交流を図った。(八栄島)
- ・学社連携事業としてグラウンドゴルフを実施し、小学6年生と地域の人がスポーツを通して触れ合うことができた。(八栄島)
- ・毎月開催の「放課後子ども教室」で支援員や実行委員の協力の元、様々な体験の機会を設けると共に、子どもたちとの世代間交流を図った。(長沼)
- ・藤島小学校3年生を対象とした学社連携事業で、郷土の偉人を学ぶ場を提供した。(長沼)
- ・長く行われている地域行事(市民運動会、敬老会、芸術文化祭、地ふぶき祭りなど)を持続するため、事業のスタッフ配置などを見直しながら、持続可能な組織体制を構築し魅力ある地域づくりに取り組んでいる。(渡前)

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・7/25大雨水害による避難対応を再検証して、適切な避難指示や住民の危機意識高揚など、自助共助の重要性を改めて認識する必要がある。
- ・少子高齢化、空き家について。
- ・デマンドタクシーの利用促進。
- ・小中一貫教育(開校時期、周辺施設など)

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地区全体の防災組織の構築。
- ・令和6年4月に渡前地区地域ビジョン『わたまへの未来をみんなで築こう!』を策定した。「渡前地区をこんなまちにしたい(将来像)」「どうやって実現するか(取組み内容)」という思いに沿い、事業内容の見直しや新規事業の展開を行っていく。(渡前)